

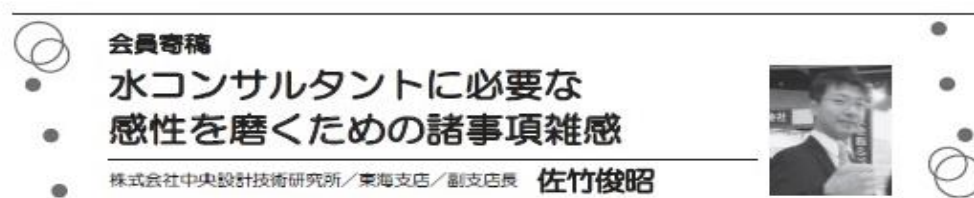
各 位

会 社 名 株式会社オリエントラルコンサルタンツホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 野 崎 秀 則
 (JASDAQ・コード番号2498)
 問合せ先 取締役統括本部長 森 田 信 彦
 TEL 03-6311-6641

株式会社中央設計技術研究所 東海支店の佐竹副支店長が「水坤」に寄稿しました

当社グループの事業会社である株式会社中央設計技術研究所（本社：石川県金沢市、代表取締役社長：笠松英昭）東海支店の佐竹副支店長が、全国上下水道コンサルタント協会の協会誌「水坤」に寄稿しました。

副支店長の佐竹さんが昨今感じている水コンサルタントに必要な感性を磨くための諸事項について、独自の視点でまとめたものです。ぜひ皆様ご一読ください。



1. はじめに

石川県金沢市に本社のある中央設計技術研究所に入社して23年が経ち、単身赴任で東海支店（岐阜市）に赴任して5年が経ちました。単身赴任ならではの生活を謳歌しながら、昨今感じている水コンサルタントに必要な感性を磨くための諸事項について、私見ながら特に若手技術者に対して工学技術以外の観点から述べたいと思います。

2. プロフェッショナルに必要な力

私は水道の技術者であります。入社以来、計画、認可、設計業務に携わってきました。近年では官民連携業務等に携わっていますが、これから活躍する若手技術者は、日本がこれまで経験したことのない人口減少時代に対応する官民連携や広域連携等の解決策を含めて、水道界を挙げての連携と挑戦により、オール世代でこの難局を乗り切っていかなければなりません。

私たちはコンサルタントでありプロフェッショナルです。プロフェッショナルに必要と考えられる力として、まず「①能力（専門力、マネジメント力）」が必要なことは自明の理ですが、「②熱意」と「③正しい考え方」も必要だと思います。熱意は主体的・当事者意識を持って関係者と連携して新たな課題に挑戦していくということです。正しい考え方とは、法令・倫理遵守は当然ながら、利己だけでなく利他の心をもって行動するということです。「他者や社会のために頑張ることが自分の成長につながる」、「自分が成長することで結果的に他者や社会の役に立つ」という相互補完的な関係を醸成させることがプロフェッショナルとしての成長のカギを握っているといえるでしょう。VUCAの時代（先行きが不透明で将来の予測が困難な時代）を強く生きていくためには、特に若手技術者は②と③の力が必要不可欠だと思います。

また、第64代総理大臣の田中角栄は、「政治家は発言に、言っていること・悪いこと、言っていない人・悪い人、言っていない時・悪い時、に善段から気を配らなくてはならない」という言葉を残していますが、これは私たち水コンサルタントにも当てはまると思います。私たちの仕

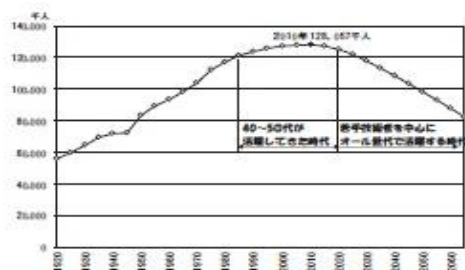


図-1 日本の人口推移（実績・推計）

事のほとんどがコミュニケーションや人間関係を含めて言葉で成り立っています。若手技術者の方は強く認識しておいて頂きたいのですが、協議や会議等に限らずお客様や社内関係者との人間関係を良好に維持するためには、適切な言葉、相手、時、場所を選択する判断が年を経るにつれてとても重要になってくる、私の23年の社会経験を通して強くそう思います。

3. 自国の歴史認識の必要性について

私たちは現在勤めている会社に所属しており、帰属意識を持っています。それ以前に日本国に所属しています。私は30代半ばで東欧マケドニアの海外プロジェクトを経験させて頂きましたが、現地の方々と雑談すると彼らは自国の歴史・神話について誇りを持って話してきます。一方、「おまえの国の歴史・神話はどうなんだ？」と質問されますが、私は十分に答えることができません。自国の歴史認識の必要性について痛感させられました。彼らや先進国を含め、ほとんどの国では自国に誇りが持てるように自国の歴史・神話を幼少時代にしっかりと教えています。最近の日本の歴史教育はあまり存じていませんが、私が小学校・中学校で学んだ歴史の記憶では、縄文時代、弥生時代を経て、魏志倭人伝に出てくる卑弥呼が邪馬台国の長として祭祀を司り、ムラがクニになり、いつのまにかヤマト政権が確立して大化の改新により天皇中心の国造りが始まった、ぐらいの認識です。現代の日本では、

日本最古の正史である古事記や日本書紀の詳細も教えていません。確かに太平洋戦争に敗北して以降は、GHQ特にアメリカ主導の教育が行われたために、日本の歴史や神話を含めて日本古来の信仰や精神は二重にも三重にも屈折させられました。一例として、私たちが卒業式等でよく歌う「蛍の光」があります。1番2番の歌詞までは歌いますが、3番4番があることはあまり知られていません。興味のある方は調べてみるのも良いでしょう。幕末以降の近代史のことを調べれば調べるほど、私たちは戦前の日本人との連続性を断ち切られてしまっている、そう思えてなりません。「愛国心」と言うと、どこか後ろめたい、偏狭なナショナリズムとして忌避する傾向が根付いてしまっています。

私たちのお客様である国や都道府県、市町村の公務員の方々は、国民や地域住民全体の奉仕者として公共の利益のために職務を行う職務宣誓をされています。公務員に準ずる役割を担う水コンサルタントにおいても、その存在価値は日本や社会のために尽力することであり、技術士試験の面接でも「公益確保の責務」を答えた経験がありますが、そうである以上、私たち日本人の感性、心情等の原点である自国の正しい歴史認識を知ることというのは特に重要だと思います。イギリスの歴史学者A.J.トインビーは「自国の歴史を忘れた民族は滅びる」と言っていますし、「すべての価値を物やお金に置き換え、心の価値を見失った民族は滅びる」とも言っています。公共のために尽力すべき私たち水コンサルタントはこの言葉を重く受け止めるべきでしょう。

4. 国際情勢の認識について

私を含めて国内で水道業務に没頭していると、国際情勢に疎くなることもあるかと思います。昨今のアメリカ・中国の覇権争いやイスラエル・アラブの中東情勢問題等、日本が海に囲まれているせいか私たちは当該事象を対岸の火事として扱うことも多いと思います。しかしながら、私たち水コンサルタントを取り巻く経営環境やサプライチェーンを含めて、世界で今何が起きているかの国際情勢は認識しておくべきですし、仕事に活かせることも多々あると思います。

私が考えるに国際情勢の根底にあるものは「民族」と「宗教」と言っても過言では無いと思います。中東問題が特にそうですし、前述した東欧マケドニアを含む旧ユーゴスラビアも、「ヨーロッパの火薬庫」と言われるぐらいのきな臭いバルカン半島に位置しており、第一次世界大戦の発端となったサラエボ事件や最近ではボスニア・ヘルツェゴビナ紛争やコソボ紛争も民族・宗教問題が原因で発生しています。

日本は一つの日本民族で成り立っており、聖徳太子の「和をもって貴しと為す」に見られるように多様性を受け

入れる寛容性の高い文化もあり、民族・宗教問題は皆無に等しいといえます。一時は「日本人は無宗教だ」という論がなされたこともありましたが、日本人の多くは宗教と聞くと「わからない」と言って、その時点で頭のスイッチを切ってしまいます。一方、世界でGDPのどのくらいが宗教関係に支出されているかを調査した方がいましたが、それによるとアメリカ・ヨーロッパで約2%、日本でも約2%だそうです。日本国憲法では宗教の自由と政教分離原則が規定されていますが、私たち日本人は出産や七五三では神式、結婚ではキリスト教式、葬式では仏式等に支出する方も多いと思いますし、各地で連続と続いている祭りや神事、仏事が証明しているように、これらの宗教観が日本人の自己同一性を形作っており、決して日本人は無宗教ではありません。

国際情勢をより理解・把握するうえで、世界5大宗教であるキリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥー教の概要・違いは知っておくことをお勧めいたします。日本民族の人生観のベースとなる宗教観があるのと同様に、各国にも人生観の根底となる宗教観があり各国の行動パターンを制限・規制しており、世界各国のコンセンサスを形成する舞台が外交であり、国際情勢を動かしている根底の一つが宗教であるといえます。日本は政教分離とはいえ、世界を動かしている宗教から逃げたはけません。

5. マスメディア報道等の本質を見抜く目について

私の会社のグループ会社である株式会社オリエンタルコンサルタンツ最高顧問の大石久和先生の名著「『国土学』が解き明かす日本の再興」で以下の事項が述べられております。

- ・2017年に高大連携歴史教育研究会が作成した高校歴史用語精選案では、歴史教育の暗記偏重から脱するため、坂本龍馬などの歴史上の有名な名前の省こうとして批判された。かなりの騒ぎとなったため、坂本龍馬はOKとなったようだが、従軍慰安婦や南京大虐殺は新たに登録された。
- ・この歴史研究会は、日本の子供たちが坂本龍馬は知らなくても歴史を学んだことになるが、従軍慰安婦を知っていなければ日本史を履修したことにならないと主張していたことになる。
- ・なぜ戦後も最近になってからの創作用語である従軍慰安婦や、大虐殺があったかどうかについてまだ議論がわかれている南京侵攻について中国の主張どおりの用語で日本の高校生が学習しなくてはならないのか説明すべきだ。
- ・文科省はいったい何を考えているのか、誰のためにこの用語を選択したのか、実に不思議な話である。
- ・これらのことが問題にもなっていない日本のこの言論



写真-1 役小角が法力で投げ入れたといわれる投入堂



写真-2 高野山金剛峰寺根本大塔

状況に、時代の空気を醸し出し言論を支配しようとする目に見えない統制の意図を感じる。

いかがでしょうか。文科省も問題ですが、テレビや新聞などのマスメディアの報道姿勢も問題だと思います。放送局も新聞社も各社各様の主義主張を持って、報道・論評するという姿勢は頷けます。しかしながら、慰安婦報道でも記事の訂正・お詫びをした新聞社もありましたが、事実に基づかない、あるいは歪曲や捏造をもって日本人と日本国の名誉を貶める、国益を損なう言動を続けるマスメディアの姿勢はいかがなものかと思えます。

水コンサルタントは公明正大でなければならないと思います。誰かの偏った価値観に依存することはもっての外で、水コンサルタントとしてお客様をより良い方向に導く立場である私たちは、常日頃から本質を見抜く目・見識を養うクセをつけることが重要です。

6. おわりに

東海支店に赴任してから、暇を見つけては趣味である登山や神社仏閣巡りに動んでいます。飛騨高山の霊峰位山や三徳山三佛寺投入堂、高野山金剛峰寺に熊野那智大社等、このような大自然や名勝地、古の文化を前にすれば、人間の一生など線香花火のきらめきのように感じられ、日頃の苦しみや悲しみ、怒りは取るに足らないものと思えてきます。

また、名のある政治家や経営者は、神社に足繫く通うと言われます。多くの成功を取っている方たちほど、天運を信じ、感謝の心を大切にされているのだと思います。若手技術者の方々も、今の仕事に携われていることへの感謝の心を忘れず、身の回りを常にきれいにし、笑顔を絶やさずに水コンサルタントに必要な感性を磨きつけて、素晴らしい充実した人生を送っていただきたいと思っています。

以上

<本資料に関するお問い合わせ先>

株式会社 中央設計技術研究所

TEL : 076-263-5070 FAX : 076-263-9442

URL : <https://www.cser.co.jp/>

本社 技術統括本部 市村 博